

# 岡山

## DVDで伝え風化防ぐ

### 森永ヒ素ミルク事件60年

西日本を中心に1万3000人を超える人に健康被害が出た「森永ヒ素ミルク中毒事件」が明らかになって今年で60年の節目を迎えた。直接知らない若い世代にも事件を知ってもらい、風化を防ぐと、「被害者を守る会」県本部がDVDを作った。編集にあたった菅野孝明さん(60)は「同様の事件を二度と起こさないために活用してほしい」と話している。

【平川義之】

### 同様の事件 二度と…



被害者を守る会 道のりまとめる

事件は1955年、森永乳業徳島工場(当時)で製造した粉ミルクに人体に有害なヒ素が混入し、これを飲んだ乳児らが発熱や下痢、皮膚の黒ずみなどの症状を訴えた。同年8月24日に県がヒ素の混入を公表して事件が明るみになった。翌年までに死者は130人になり、後遺症の深刻さも判明。民事訴訟や不買運動が広がり、73年12月に森永乳業は責任を認め、同社と国、被害者団体が恒久救済措置に合意した。

菅野さんから県本部の

森永ヒ素ミルク事件の風化を防ぐと作ったDVDを手にする菅野孝明さん(北区)

メンバーは昨年10月、60年の節目を前に、被害者やその家族向けとして事件に関するDVDを初めて制作。販売などはしていなかったが、医療関係者や教育関係者から「研修や授業などで活用したい」などといった要望が寄せられたことから今年編集し直し、販売することにした。

DVDは約45分間。事件を報道した当時の新聞記事や写真、被害者や関係者の証言などをもとに、発覚から被害者救済支援までの道のりを画像と音声で紹介する。また、新たに事件の根本的な原因やその背景についても取り上げ、「企業の注意義務、安全に対する感覚の欠如が事件を生んだ」と指摘している。

被害者や当時を知る関係者も高齢化が進み、事件の風化が進んでいるという。菅野さんは「子供を守ろうとする被害者の親らによる長年の努力で、救済事業の確立にまで至った。同様の食品公害が起きたとしても、ヒ素ミルク事件は教訓となるはずだ」と話す。

DVDは1枚1000円(税込み)。問い合わせは、守る会県本部(0866・23221・30051)。